

## 今週（8月15日から8月19日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初の15日こそ積み最終日となったことで、地銀業態中心に調達ニーズの強まりが見られたものの、その後は新積み期入りしたことで総じて取り急ぐ動きはなく、落ち着いた展開となった。

当座預金残高は概ね300兆円前後で推移した。無担保コールO/Nのレート水準は15日こそ強含んでいたものの、新積み期入り後は▲0.06～▲0.03%のレンジで取引され、加重平均レートは▲0.04%台半ばとなった。ターム物は1W～1Mまで概ね▲0.03～▲0.02%の出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは18日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額は1,891億円（期落ち額2,040億円）の札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは▲0.09～▲0.07%近辺での取引が中心となり、週を通して投資家からのまとまった資金調達が目立った。15～17日にかけてのS/Nは、▲0.095～▲0.085%近辺の出会い。18日のS/Nは、国債発行要因で売り物が多く、▲0.08～▲0.07%近辺の出会いまで上昇した。19日のS/Nは、日銀の国債・短国買入オペが通知された影響で▲0.095～▲0.085%近辺の出会いに低下した。

SCIは個別銘柄では5y125～128、10y336～343、20y157、30y48～50、40y8～9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、全般的に需給が良好であることを背景に、堅調な地合いが続いた。

17日には1Y物、18日には3M物の入札が実施された。1Y物の平均落札利回りは▲0.2480%、按分落札利回は▲0.2410%（按分比率83.5740%）と、オペ見合いの買が入ったことで、堅調な結果となった。その後のセカンダリーでも、一時▲0.34%まで買い進まれるしかりとした展開となった。3M物は、WI取引で▲0.255～▲0.245%の出会いが見られる中、平均落札利回は▲0.2341%、按分落札利回は▲0.2124%（按分比率66.5619%）と、概ね事前予想通りの順調な結果となった。その後のセカンダリーでは、▲0.24%で少額の出合いが見られた程度であった。

19日には短国買入オペが25,000億円で実施され、平均利回較差+0.014%、按分利回較差+0.002%（按分比率89.1%）と、落ち着いた結果となった。

### ●CP市場

今週のCP市場は、週前半は夏季休暇の事業法人が多かったため、15日の入札案件は0件、16日は3件と非常に閑散なマーケットとなった。ただ、17日以降は夏季休暇が明け始めたことで、機械・鉄鋼・石油・ノンバンク業態からまとまった案件が見られたため、週間の償還・発行総額共に約3,500億円となった。発行レートについては、期内の償還物及び、発行残高が積み上がっている銘柄でわずかにレートが上昇したものの、期末越え物については概ね0%に近いプラス圏内で決着した。また、現先レートは引き続き低位横ばいで推移した。

16日にはCP等買入オペが3,500億円を実施され、平均落札レート0%・按分落札レート▲0.001%と、按分・平均共に前回と同様の結果となった。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/15（月）	16,869.56	△ 0.089	101.30	△ 0.029	△ 0.085	2,997,700
8/16（火）	16,596.51	△ 0.099	100.28	△ 0.044	△ 0.087	3,037,000
8/17（水）	16,745.64	△ 0.085	100.50	△ 0.044	△ 0.087	3,038,400
8/18（木）	16,486.01	△ 0.085	99.80	△ 0.045	△ 0.088	3,034,200
8/19（金）	16,545.82	△ 0.090	100.35	△ 0.047	△ 0.080	3,045,900

## 来週（8月22日から8月26日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/22 (月)					
8/23 (火)	FinTechフォーラムにおいて黒田総裁講演	20Y発行 11,000億円 8/25発行	交付税借入 10,500億円 8/31借入		7月の米新築一戸建て販売件数
8/24 (水)	月例経済報告(内閣府) 6月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				7月の米中古住宅販売
8/25 (木)	7月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 8/29発行	流動性供給 5,000億円 8/29発行	交付税借入 10,500億円 9/2借入	7月の米耐久財新規受注
8/26 (金)	8月都区部・7月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)				4-6月期の米GDP改定値 4-6月期の英GDP改定値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/22 (月)	600	▲ 53,000	▲ 52,400	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 2,000 ▲ 600 200	1,900 200	▲ 300	▲ 52,700	TB3M発行▲44000償還39300 TB1Y発行▲25000償還5600 5Y発行▲24000
8/23 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000	国債買入 短国買入		12,500 25,000	37,500	38,500	交付税借入▲10500期日10500
8/24 (水)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
8/25 (木)	▲ 1,000	▲ 11,000	▲ 12,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 11,000	20Y発行▲11000 国有林野借入▲1000期日1400
8/26 (金)	▲ 2,000	0	▲ 2,000	被災地支援	▲ 400		▲ 400	▲ 2,400	
週間合計	▲ 4,400	▲ 64,000	▲ 68,400	—	▲ 2,800	40,600	37,800	▲ 30,600	

8/22は日銀予想、8/23以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、短国・国債の発行で22日と25日が大幅な不足日となることが見込まれるが、無担保コールO/N加重平均レートは然程変わらないと予想される。

短国市場は25日に3M物の入札が実施される予定となっており、入札水準は概ね横ばい圏となることが見込まれる。

CP市場は事業法人の夏季休暇が明けるとして、資金調達が増加が期待される。また、26日に今月最後のCP等買入オペが3,500億円で実施される予定となっているものの、依然として引受金融機関の売却ニーズは強く、前回比で変化の乏しい結果が見込まれる。

主要なイベントとしては26日の7月の全国CPI、4-6月期の米GDP改定値、4-6月期の英GDP改定値などが挙げられる。また、今回からCPIは2015年基準に改定される。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入